

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-137	実施計画番号	#N/A	事業開始年度	平成25年度
事務事業名	とわだ子ども議会			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	十和田市まちづくり基本条例第3章の「子どもの意見をまちづくりに活かす」ことを受けて、とわだ子ども議会を実施する。				
事務事業の目的	議会を模擬体験することにより、子どもたちに議会や行政の仕組みを知ってもらうとともに、質問を通して自分たちの住んでいる十和田市について考え、郷土を愛する心情をはぐくむ。				
実施状況	市内小学6年生を対象に議員を選出し、実際に議場で質問等を行い、議会を模擬体験する。 議員数22名(男5名、女17名) 参加校(西小学校、ちとせ小学校、北園小学校、南小学校、三本木小学校)				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	40	40	40
	人件費(千円)	1,440	1,440	1,440
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		24	24	24

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		開催数				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
			回	1	1	1	
成果指標	活動指標名②						
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
成果指標	成果指標名①		参加者数				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
		人	目標値	22	22	22	
			実績値	24	22		
			達成度(%)	109%	100%		
	成果指標	成果指標名②					
計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定		
		目標値					
		実績値					
		達成度(%)					

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>存在意義の見直しの余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">子どもたちに十和田市の将来を考えてもらうことは、これからの地域を担う子どもの育成が図られ、十分に妥当性がある。</td> </tr> </table>	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>	子どもたちに十和田市の将来を考えてもらうことは、これからの地域を担う子どもの育成が図られ、十分に妥当性がある。	
	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>								
子どもたちに十和田市の将来を考えてもらうことは、これからの地域を担う子どもの育成が図られ、十分に妥当性がある。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>成果向上の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>1 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">小学校の協力を得ながら、定員の22名を満たしている。しかし、参加校は全体の4割程度のため、参加校を増やしていきたい。</td> </tr> </table>	<b>成果向上の余地</b>	<b>1 / 6</b>	小学校の協力を得ながら、定員の22名を満たしている。しかし、参加校は全体の4割程度のため、参加校を増やしていきたい。	
	<b>成果向上の余地</b>	<b>1 / 6</b>								
	小学校の協力を得ながら、定員の22名を満たしている。しかし、参加校は全体の4割程度のため、参加校を増やしていきたい。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>コスト削減の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">当選証書や議員札、議員バッジと活動記録の作成等、必要最低限なコストである。</td> </tr> </table>	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>	当選証書や議員札、議員バッジと活動記録の作成等、必要最低限なコストである。	
	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	当選証書や議員札、議員バッジと活動記録の作成等、必要最低限なコストである。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>受益者負担適正化の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">自己負担はないため、公平性は保たれている。</td> </tr> </table>	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>	自己負担はないため、公平性は保たれている。	
	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>								
自己負担はないため、公平性は保たれている。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>現在の適性</b>					<b>19 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>1 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

**有効性を改善して継続**

### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

とわだ子ども議会は、今年度で3年目の事業となるため、市内小学校へは浸透してきた。「よりよい十和田市にするために」をテーマに質問書を考えさせることで、十和田市のまちづくりに参画する機会とする。また、市長や教育長の答弁から、現在の行政の取組を知る機会とし、将来の十和田市の発展を考えさせたい。

### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

事前の勉強会において、現在の十和田市の魅力やこれからの発展を意識させ、郷土を愛する心情を育ませる。また、子どもの意見をまちづくりに活かすことができるように、各担当課に答弁に係る追跡調査を実施し、行政の取組へ活かすように進めていく。